理解度テスト2解説付き解答

平成 年 月 日

選択肢の中から正解の番号を1つだけ選択してください。

1. 超上流から攻めるIT化の原理原則17ヶ条で記述されているものはどれですか

　①ユーザとベンダの想いは同じ　②要求定義の責任は受注者　③構築時のコストを重視

　④要求定義は説明責任を伴う

【解答】④

【解説】要求定義は説明責任を伴います。原理原則17ヶ条では、①はユーザとベンダの想いは相反する、②は要求定義は発注者の責任である、③はライフサイクルコストを重視する、となっています。要求定義は発注者と受注者、協同で決定します。

1. 非機能要求を説明しているのはどれですか

　①システムに求められる業務処理機能　②業務に必要な手順を実行するもの

　③ユーザは非機能要求を意識しなくて良い　④機能要求以外にシステムが兼ね備えるべき条件

【解答】④

【解説】①と②は機能要求のことです。

1. 非機能要求グレードで定義している6大項目に**含まれない**ものはどれですか

①可用性　②信頼性　③移行性　④セキュリティ

【解答】②

【解説】大項目は可用性、性能・拡張性、運用・保守性、移行性、セキュリティ、システム環境・エコロジーの6項目であり、信頼性は可用性に含まれ、大項目ではありません。

1. ある時点、またはある一定の期間において、決められた条件のもとで要求された機能を果たせる状態にある能力を示す言葉はどれですか

①可用性　②運用性　③拡張性　④保守性

【解答】①

【解説】可用性はシステムの故障の少なさや復旧の早さのことであり、要求された機能をいつでも提供する能力となります。②～④については講義用スライドの3章を確認してください。

1. システムの開発コストや品質に影響を与える度合いの大きいメトリクスを何といいますか

①要求項目　②要求レベル　③重複項目　④重要項目

【解答】④

【解説】システムの開発コストや品質に影響を与える度合いの大きいメトリクスを重要項目と言い、グレード表の対象項目になっています。重要項目数は92項目あります。

1. モデルシステムを選択したあと推奨しているアクションは次のどれですか

　①重要項目以外のレベル決定　②重要項目のレベル決定　③メトリクスの選択

④グレード表の選択

【解答】②

【解説】非機能要求の決定手順は、モデルシステムの選択、重要項目のレベル決定、重要項目以外のレベル決定、の3段階で実施していきます。

1. 非機能要求項目のレベル決定で非機能要求グレードに記述されているのはどれですか

　①レベルのベース値は変更できない　②レベルの変更はベンダの一存で決定

③レベルの変更はユーザの一存で決定　④レベルのベース値は変更して良い

【解答】④

【解説】レベルのベース値はグレード表に示されています。このベース値は変更して良いのですが、ユーザとベンダの合意は必要です。

1. 一般的に非機能要求の項目を**未考慮**、あるいは**未適用**の場合どうなりますか

　①システムダウンのリスクが減る　②システム開発費が必ず安くなる

　③システムへの影響はない　④システムダウンのリスクが増える

【解答】④

【解説】一般的に、非機能要求の項目を考慮するとリスクは減少し、システムの開発費は高くなります。しかし、運用まで考えるとTCO(Total Cost of Ownership)は減少すると考えられます。

1. 機能要求と非機能要求の検討について関連を示しているのはどれですか

　　　　①機能要求と非機能要求は別物なので一緒に検討できない

②機能要求の検討では非機能要求グレードを全く参考にできない

③機能要求によっては非機能要求の検討は可能である

④必ず非機能要求を検討してから機能要求を検討する

【解答】③

【解説】機能要求を頭に入れて、非機能要求グレードの項目一覧を俯瞰し、関連する非機能要求項目を洗い出します。その後、非機能要求の詳細な検討を行います。

1. 非機能要求グレードを利用できる工程として次のうち最も正しいのはどれですか

　①要求定義のみ　②上流工程のみ　③運用も含んだ全工程　④運用工程のみ

【解答】③

【解説】システム化の方向性、システム化計画、要件定義は勿論、開発工程や運用工程でも利用可能です。運用時にも利用例がでており、講義用スライドの7章を確認してください。